
マウスエミュレーションソフトウェア

TSC-10/DD v4.00.06P

取扱説明書

株式会社ディ・エム・シー

—目次—

はじめに	2
インストール	3
使い始める前に	6
マウス操作	7
機能設定	9
その他	20

この取扱説明書で提供するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することが出来ます。

著作権

Copyright © 1998-2007 Touch-Base Ltd.

商標

Microsoft、Windows は Microsoft Corporation の米国に於ける登録商標または商標です。

はじめに

本書には TSC-10/DD を正しくご使用していただくための情報が記載されています。十分に機能を発揮させていただくため、また予期せぬトラブルを未然に防ぐためにも本書をよくお読みになってください。

A 特徴と機能

TSC-10/DD は弊社タッチパネルコントローラ TSC-10/IC を利用し Windows 上でタッチパネルを操作することによりマウス操作環境を実現する、マウスエミュレーションソフトウェアです。以下に提供する機能とその特徴を示します。

1. タッチパネルを操作することでマウスと同等な操作環境を実現することができます。
2. マウスとの共存が可能のため、特別な設定を行うことなくタッチパネル、マウス双方を切替え使用することが出来ます。
3. タッチパネルコントローラが、シリアルポート、USB どちらに接続されていても、インストール時に対応したドライバを選択することにより使用することが出来ます。
4. 柔軟なカスタマイズ機能により、マウス左右ボタン切替えはもちろんのこと、クリック操作に関する詳細な設定、タッチ入力に対するイベントのカスタマイズ、精密なキャリブレーション機能など広範な使用状況で優れた操作性を提供します。

B 表記について

本書では、動作対象 OS、TSC-10/DD の表示に関して、特定の名称・表示に対しては以下のように表現します。

「****」 アイコン名、ボタン名を表します。例えばフロッピーディスクドライブのアイコンは「3.5 インチ FD(A:)」となります。

<***> キーボード上のキーを表します。例えば Enter キーは<Enter>となります。

‘***’ ウィンドウタイトル名を表します。例えば、ボタンモードの追加 と題されたウィンドウは‘ボタンモードの追加’となります。

[***] 上記以外の文字列を表します。例えばスタートメニュー内のプログラムは[プログラム]となります。

Windows 単に Windows と表記の場合は、全ての対応 OS を表します。

本ソフトウェア TSC-10/DD を表します。

C 動作環境

対応機種 IBM PC/AT 互換機

対応 OS Windows Vista 32bit

D 注意事項

1. 本ソフトウェアは弊社製タッチパネルコントローラ TSC-10/IC のマウスエミュレーションソフトウェアです。他社のタッチパネルコントローラ及びタッチパネルコントローラに類する物は動作対象外となります。
2. 本ソフトウェアの使用方法は本書に従った方法で行ってください。異なる使用方法では動作しない場合があります。
3. 本ソフトウェアは対応機種として明記された機種、OS 以外では動作対象外となります。
4. 他のマウスエミュレーションソフトウェア或いは類似の機能を提供するソフトウェアがインストールされた環境では使用しないで下さい。正常に動作しない場合があります。
5. ドライバの読み込みは、インストールプログラム(setup.exe)を実行する事により行われます。
インストールプログラム実行以前にドライバを読み込み、タッチパネルを操作することは出来ません。
また、インストールプログラムの 2 重起動は行わないでください。
6. 本ソフトウェア以前のバージョンがすでにインストールされている場合は、必ずそのソフトウェアのアンインストールを行ってから、本ソフトウェアをインストールしてください。上書きインストールをすると正常に動作しない場合があります。

インストール

本ソフトウェアは、タッチパネルコントローラ TSC-10/IC がシリアルポート、又は USB どちらに接続するかにより、インストール作業が一部異なります。

A インストール共通作業

1. コンピュータの電源投入

コンピュータの電源を入れ、Windows を起動してください。

2. インストーラ起動

本ソフトウェアのインストーラ「Setup.exe」をダブルクリックするなどして、インストーラを起動してください。

‘ユーザーアカウント制御’ ウィンドウが表示された場合は、「許可 (A)」をクリックしてください。また、‘Windows セキュリティ’ ウィンドウが表示される場合には、「このドライバソフトウェアをインストールします (I)」をクリックしてください。

すると以下の画面が立ち上がります。

USB コントローラを使用する場合、インストール前にコントローラを接続しないでください。正しく動作しない可能性があります。インストール完了後、接続するようにしてください。



B コントローラの選択

リストから、使用しているタッチパネルコントローラを選択してください。

シリアル接続の場合 [DMC TSC-10 Series, Serial]、USB 接続の場合 DMC TSC-10 Series, USB]を選択してください。



[DMC TSC-10 Series, Serial]を選択した場合、[シリアルポート接続]の項へ進んでください。

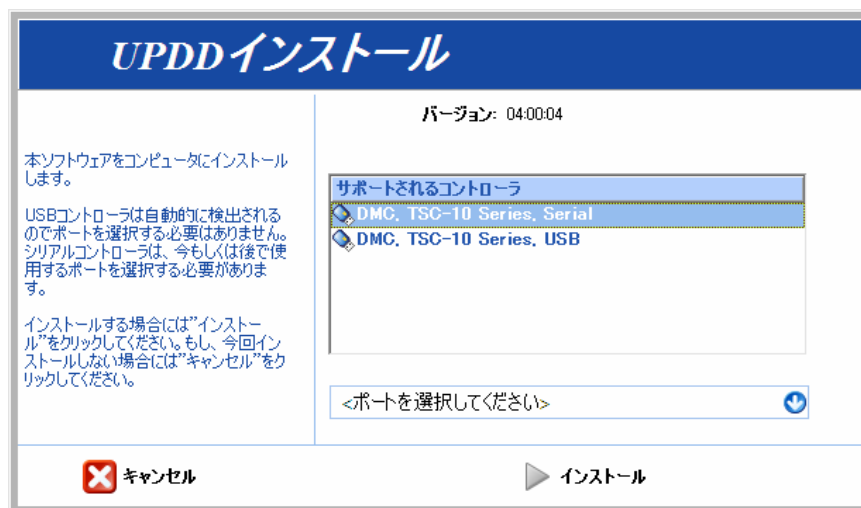
[DMC TSC-10 Series, USB]を選択した場合、「インストール」をクリックしてください。

[インストール完了]の項へ進んでください。

C シリアルポート接続

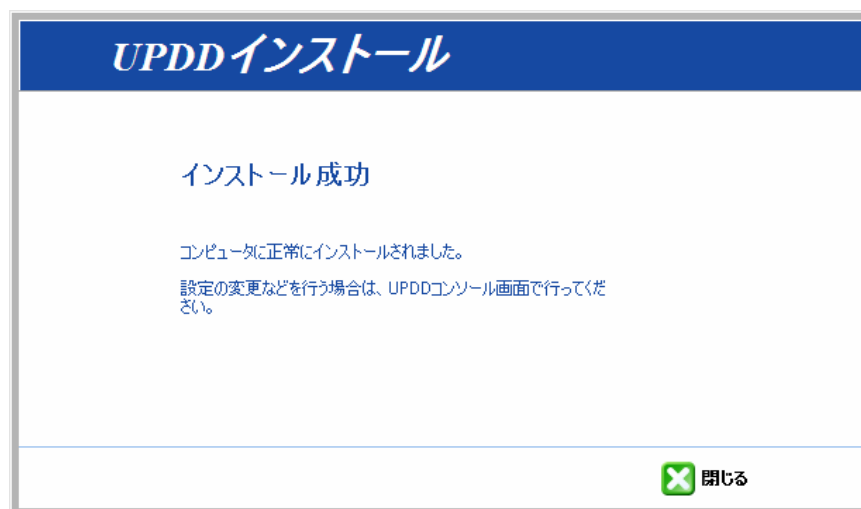
[DMC TSC-10 Series, Serial]を選択した場合、接続するポートを選択する項目が表示されます。＜ポートを選択してください＞のプルダウンメニューよりタッチパネルコントローラが使用するシリアルポートを選択してください。

ポートの選択後「インストール」をクリックしてください。



D インストール完了

[インストール成功]と表示されれば、インストール完了です。「閉じる」をクリックしてください。



‘検出中...’ ウィンドウが消えると、タッチパネルの動作が可能となります。

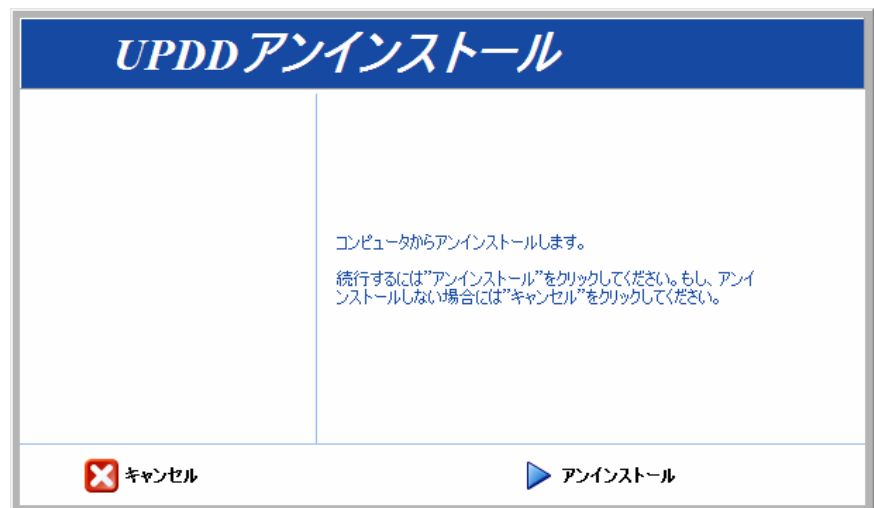
インストール終了後、USB コントローラをパソコン本体に接続した場合、または、異なる USB ポートへ接続した場合、検出中...’ ウィンドウが表示されます。ウィンドウが消えるとタッチパネルの動作が可能となります。

E アンインストール

本ソフトウェアをアンインストールするには「コントロールパネル」にある「プログラムのアンインストール」を実行し、「Universal Pointer Device Driver」を選択してアンインストールを実行してください。

以下のウィンドウが開きますので、「アンインストール」をクリックしてください。アンインストールが始まります。

USB コントローラをお使いの場合、アンインストールを行う前に USB コントローラをホストコンピュータから外してください。



使い始める前に

キャリブレーション

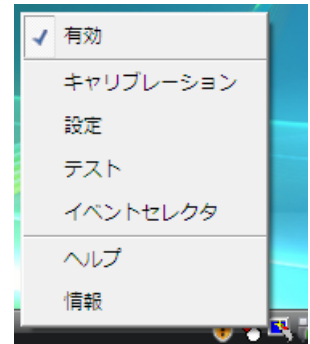
タッチパネルは、使い始める前にキャリブレーションを行わなければなりません。キャリブレーションとは、タッチパネル上にタッチ入力した位置と、Windows のカーソル位置を合わせるために行う非常に大切な操作で、この作業を行うことによってタッチパネルを違和感無く操作できるようになります。

〈EEPROM キャリブレーション機能を使用しない場合〉

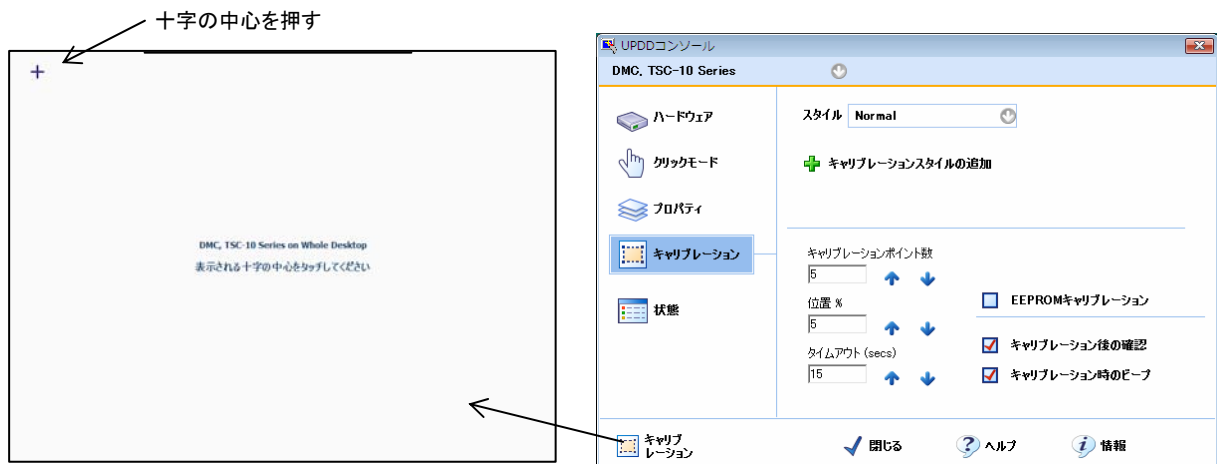
一度キャリブレーションを行えばキャリブレーションデータは Windows に記憶される為、以後、Windows を起動するたびに本操作を行う必要はありません。

キャリブレーションを行うには、はじめに以下の何れかの手順を行ってください。

1. 「スタート」→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[設定]を選択してください。
2. デスクトップ右下の、システムトレイのアイコン(右絵)をクリックし、[設定]を選択してください。



上記 1. 又は 2.を実行後、表示された‘UPDD コンソール’の[キャリブレーション]をクリックし、現われたターゲットをタッチします。タッチ入力すると他の場所に次のポイントが現われますので同じように入力していきます。



全てのキャリブレーションポイントの入力を終わると確認画面が現われ*1、行ったキャリブレーションデータ保存を促すメッセージが表示されます。入力が問題なく行えた場合は「OK」ボタンをクリックします。キャリブレーションポイント以外を間違えて押してしまった場合はそのまま何もせず 15 秒間*2 待ってください。15 秒経過すると、行ったキャリブレーションデータは破棄され、Windows には保存されません。

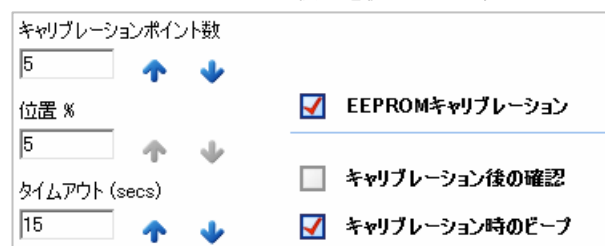
*1 確認画面を表示させないようにすることもできます。

*2 15 秒はデフォルトの数値です。この値は任意に変更できます。

〈EEPROM キャリブレーション機能を使用する場合〉

本機能を有効にすると、キャリブレーションを行う動作は上記の〈EEPROM キャリブレーション機能を使用しない場合〉と同様ですが、キャリブレーションデータの保存場所がEEPROMになります。この機能を有効にした場合、キャリブレーションの位置(矢印の位置)を変更することができません。又、キャリブレーション後の確認も行えません。

(注意) コントローラに EEPROM が実装されている必要があります。



タッチパネルは、経年変化により導入時と比較し、座標がずれることがあります。その場合は、再度キャリブレーションを行うことを推奨します。

マウス操作

A クリック、ドラッグ操作

マウスのクリック、ダブルクリック及びドラッグなどの基本操作は、タッチパネルでは次のように行います。

クリック: タッチパネルをタッチし、離します。

ダブルクリック: タッチパネルを素早く2回タッチします。

ドラッグ: アイコン、ウィンドウのタイトルバーをタッチし、タッチしたまま指(或いはペン)を移動させます。

B マウスの右クリック

タッチパネルでは、マウスの様に2つのボタンはありませんのでタッチパネルで右ボタン操作を行いたい場合は、次のように操作します。

「スタート」→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[イベントセクタ]を選択、起動してください。もしくは、システムトレイのアイコンをクリックし、[イベントセクタ]を選択します。マウスの絵が描かれた小さいウィンドウが表示されます。マウスの絵をタッチするたびに紺色のマウスボタンが切り替わりますが、このボタンがアクティブボタンとなり、このアクティブボタンが直後にタッチパネルにタッチしたときの、マウスボタンの動作となります。

初期設定では、右ボタンを選択し、右クリック操作を1回行った後は自動的に左ボタンに戻ります。



C イベントセクタ

イベントセクタを使用することにより、マウスボタンの左クリック、右クリックを切り分けて使用することが出来ます。

1. イベントセクタ起動

「スタート」→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[イベントセクタ]を選択し、起動します。

又は、システムトレイのアイコン(右絵)をクリックし、[イベントセクタ]を選択し、起動します。



2. 各設定

イベントセクタの設定は、ウィンドウ左上の小さいマウスの絵をクリックし、表示されたメニューを選択することで行います。

1 クリックモード:

右クリック設定を、1回のタッチのみ有効にします。

アイコン (小):

ウィンドウ中の、マウスの絵の大きさを小さく表示します。

アイコン (中):

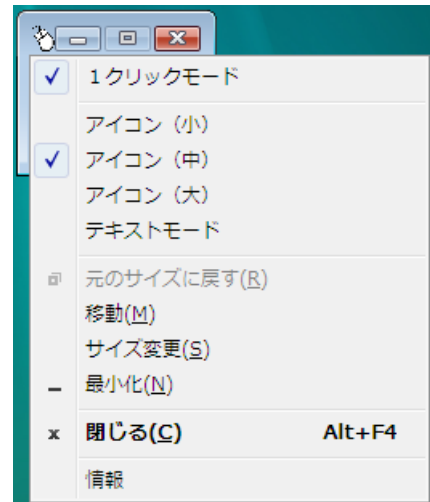
ウィンドウ中の、マウスの絵を標準の大きさで表示します。

アイコン (大):

ウィンドウ中の、マウスの絵の大きさを、大きく表示します。

テキストモード:

ウィンドウ中の表示をテキスト表示します。



機能設定

本ソフトウェアは、標準の設定では通常のマウス操作環境と同様な環境を提供しますが、柔軟なカスタマイズ機能を利用することにより、特定用途にあわせた操作環境を容易に作り出すことができます。

動作設定画面起動

下記の何れかの方法により起動を行います。

1. 「スタート」→[すべてのプログラム]→[UPDD]→[設定]を選択、起動します。
2. システムトレイのアイコン(右絵)をクリックし、[設定]を選択、起動します。








‘UPDD コンソール’ ウィンドウが現われ、画面はいくつかの項目によって分けられています。この項目は設定目的別に分けられており、コントローラの追加は[ハードウェア]、コントローラの状態確認は[状態]、キャリブレーションに関する内容は[キャリブレーション]というように、行いたい内容ごとに一つの画面にまとめられています。

ハードウェアおよびデバイス設定

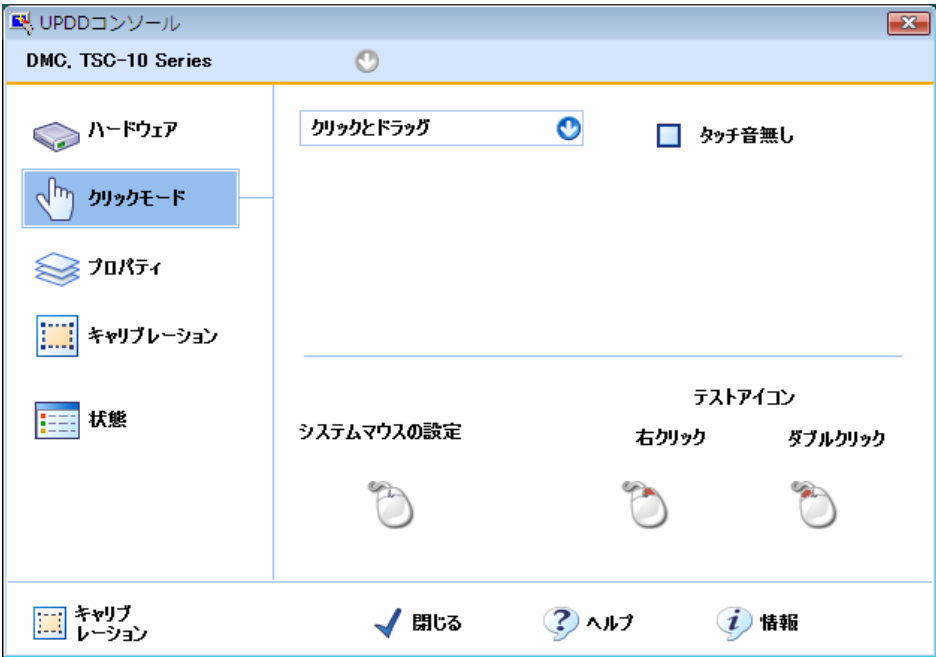
「ハードウェア」では、デバイスを特定モニターや任意の操作エリアと関連付けることができます。デバイスを接続するポート情報も確認することができます。



項目	説明
 画面の 全体 を操作	<p>選択されたデバイスによって操作する操作エリアを表示します。通常は画面全体が選択されています。マルチモニター環境で使用する場合には、デバイスを特定のモニターに関連付けることができます。“カスタム”に設定すると任意に操作エリアを設定することもできます。</p> <p><i>注意</i> 操作エリアを変更した場合には、再度キャリブレーションを実行する必要があります。</p> <p><i>注意</i> 操作エリアで[全体]以外（[左半分]～[カスタム]）を選択する場合、キャリブレーションポイント数を 2/4/9/25 のいずれかの設定でお使いください。</p>
 COM1 に接続	<p>デバイスを接続するポートを表示します。</p> <p>USB コントローラの場合、接続情報を表示します。シリアルコントローラの場合、シリアルポートの構成を表示します。</p>
 デバイスの追加	<p>マルチタッチパネル環境のような場合にデバイスを追加する時に使用します。</p> <p><i>注意</i> ただし、本バージョンはマルチタッチパネル環境に対応していません。</p>
 デバイスの削除	<p>現在のデバイスを削除する時に使用します。</p>
 PnPデバイスの再検出	<p>プラグアンドプレイデバイスは通常自動的に検出されますが、それができなかった場合、再検出するために使用します。</p>

クリックモード設定

「クリックモード」では、クリックに関する動作を設定します。また、OS 内のクリック設定へのリンクも持っています。



項目	説明
<div>クリックとドラッグ</div>	現在のクリックモードを表示します。
	以下のクリックモードで、さまざまなクリックを定義できます。 (左クリックや右クリックの設定は「イベントセクタ」で行います。)
<div>クリックとドラッグ</div>	タッチした時ペンダウンし、ドラッグを行うことができます。指を離れた時にペンアップとみなします。(通常のマウス操作と同様です)
<div>ドラッグ後クリック</div>	タッチした時ペンダウンとはみなさず、カーソル移動後、指を離れた時にペンダウンおよびペンアップ操作を行います。
<div>ポイントとクリック</div>	タッチしたポイントでペンアップおよびペンダウンを行います。ドラッグ操作はできません。
<div>インタラクティブタッチ</div>	タッチしたまま静止した状態を保つと右クリックを行います。 [インタラクティブタッチのスピード]経過後、右クリックを行います。[視覚通知]を有効にすることにより、右クリックまでの時間を視覚的に示します。
<div>タッチ音無し</div>	タッチした時のタッチ音を消したい場合にチェックします。

システムマウスの設定



オペレーティングシステムの範囲内で定められるマウスポインタの設定をすることができます。

テストアイコン

右クリック



ダブルクリック



右クリックおよびダブルクリックのテストを行うことができます。テストが正常ならばチェックが示されます。

イベントセクタ

クリックエミュレーションは、プライマリもしくはセカンダリの 2 つのイベントのうち 1 つを行うことができます。プライマリイベントは左クリックに、セカンダリイベントは右クリックに設定されています。








イベントセクタは、どちらのイベントを行うのかを示すために用います。

プロパティ

「プロパティ」では、デバイスに関する様々な詳細設定を行うことができます。



項目	説明
名前 <input type="text" value="DMC, TSC-10 Series"/>	デバイスに対して名前を設定することができます。
ローパスフィルター <input type="text" value="0"/> ↑ ↓	よりスムーズな線描写を行うために設定します。ジッターを取り除くための設定です。 あまり高い値を設定してしまうと描写速度に影響を与えますのでご注意ください。
リフトオフタイム <input type="text" value="2"/> ↑ ↓	この機能は[リフトオフパケットを使用]がオフの時、有効となります。 この値は、ドライバが最後の座標データパケットを受け取った後、実際にペンアップ処理を行うまでの待ち時間を設定します。20ms 単位で設定します。(5=100ms) [リフトオフパケットを使用]がオンの時には、タッチパネルから指(ペン)を離れた後すぐにペンアップ処理を行います。 もしこの機能を有効にする場合には、この値は座標データの packets 間のインターバルよりも大きな値を設定する必要があります。もし、0 もしくは 1 に設定した場合、ペンダウンと同時にペンアップが発生しますので、ペンアップが無効として扱われてしまいます。

安定化 <input type="text" value="0"/>  	<p>カーソルが一定位置に留まろうとする作用の度合いを設定します。タッチ入力位置の移動量が一定量を超えるまでカーソルは移動しません。</p> <p>初期値は0で安定化作用は働きません。設定値を大きくするほど安定化作用が働きます。</p>
平均化 <input type="text" value="0"/>  	<p>カーソルが一定位置に留まろうとする作用の度合いを設定します。「安定化」と異なる点は、「安定化」はタッチ位置の移動量が一定量を超えるまでカーソルは同じ位置から移動しませんが、本項目は設定値により、タッチ位置に緩やかに移動します。</p> <p>初期値は0で平均化作用は働きません。設定値を大きくするほど平均化作用が働きます。</p>
優先権	
モード <div><div>インターロック</div></div>	<p>マルチタッチパネル環境で使用する時、それぞれのデバイスに対して優先権を与えることができます。</p> <p>インターロック: 他に使っているユーザーがいない場合、いつでも操作が行えるユーザーです。他に使っているユーザーがいる場合、他のユーザーが[リリースタイム]設定による使用権を放棄された後使用することができます。</p> <p>タッチパネル操作中、アドミニユーザーが他のタッチパネルを入力すると、自動的に使用権は放棄され、以後アドミニユーザーが使用権を放棄するまで、タッチパネルを操作することができません。</p> <p>アドミニ: いつでも操作が行えるユーザーです。他のタッチパネルが使用中でも割り込むことができます。</p>
リリースタイム <input type="text" value="5"/>  	<p>モードで設定したアドミニ、またはインターロックユーザーが、操作終了後（タッチパネル入力終了後）、タッチパネルの使用権を放棄するまでの時間設定です。</p> <p>20ms 単位で設定します。(5=100ms)</p>
<input checked="" type="checkbox"/> リフトオフパケットを使用	<p>もしチェックがオンになっている場合、タッチしている指(ペン)を離れた時、すぐに離れたとみなします。もしチェックをオフにするなら、上記に記載している[リフトオフタイム]が有効になります。</p> <p>文字入力するときはチェックをオフにしてください。</p>
<input type="checkbox"/> カーソルの固定	<p>有効にすると、タッチ入力が終わった後、カーソルが最初の位置に戻ります。</p> <p>マルチタッチパネル環境において使用すると、タッチ入力後、別のモニターにカーソルを戻すことができます。</p>


 有効	<p>チェックがオンの状態でタッチパネルを操作することができます。</p> <p>ドライバを無効にしたい場合は、チェックをオフにします。オフにするとタッチパネルコントローラが使っているポートが開放されます。従って、この機能を使うことによりドライバをアンインストールせずにリソースを開放することができます。</p>
 詳細設定	<p>必要に応じて設定してください。</p>
<p>端面加速度</p>	<p>カーソルが画面の端面に近づく時、カーソルの移動量を増加させることができます。例えば、タスクバーを自動的に隠している設定にしている時に、タスクバーを表示させるためにカーソルを移動させる場合に効果的です。</p> <p>プライマリモニターでのみ有効な機能です。</p> <p>例えば、画面下辺にタスクバーがある場合、「下限 3000」「下ゲイン 20」の設定にするとタスクバーを表示しやすくなります。</p> <p>この機能を使う時、「キャリブレーションエリアの外側を無視する」を有効にしないでください。</p>
 キャリブレーションエリアの外側を無視する	<p>この機能を有効にした場合、指定したキャリブレーションエリアよりも外側を入力しても、無視されます。</p> <p>EEPROM キャリブレーション機能を使用する場合、この機能は OFF になります。</p>

キャリブレーション設定

「キャリブレーション」では、現在のデバイスに対するキャリブレーション設定を行います。



項目	説明
スタイル <div>Normal</div>	<p>キャリブレーションスタイルの表示・選択を行います。それぞれのデバイスに対して固有のキャリブレーションスタイルを持たせることができます。キャリブレーションスタイルは、UPDD コンソール、もしくはシステムトレイで切り替えることができます。</p> <p>例えば、キャリブレーションポイントやキャリブレーション位置などを頻繁に切り替える時など、キャリブレーションスタイルを定義しておく便利です。</p>
<div>+</div> スタイルの追加	新しいキャリブレーションスタイルを追加します。
<div>−</div> スタイルの削除	選択したキャリブレーションスタイルを削除します。
キャリブレーションポイント数 <div>4</div>	<p>キャリブレーションポイント数を表示します。</p> <p>線描写や文字入力を行う場合には、5 ポイントや 9 ポイントを設定するとさらに位置補正精度が上がります。</p>
位置 % <div>5</div>	キャリブレーションポイントを画面の端面からどのくらいの位置に表示するかを設定します。
タイムアウト (secs) <div>15</div>	<p>キャリブレーション実行後、タイムアウトになるまでの時間を設定します。</p> <p>注意 あまり小さい値を設定すると設定が難しくなりますのでご注意ください。</p>

<input type="checkbox"/> EEPROMキャリブレーション	キャリブレーションデータの保存場所を EEPROM にする場合、有効にします。 ただし、コントローラに EEPROM が実装されている必要があります。
<input checked="" type="checkbox"/> キャリブレーション後の確認	これを有効にすると、キャリブレーション実行後に確認画面が表示されます。
<input checked="" type="checkbox"/> キャリブレーション時のビープ	これを有効にすると、キャリブレーション実行中、指(ペン)を離した時にビープ音を鳴らします。
<p>キャリブレーション設定を必要に応じて定義すれば、以下に示すキャリブレーションボタンを実行することにより、キャリブレーションを実施することができます。</p>	
 キャリブレーション	<p>現在のデバイスにおいてキャリブレーション(位置補正)を行います。</p> <p>これを実行するとキャリブレーションポイントが表示されますので、順番にポイントをタッチしてください。</p> <p>途中で<Esc>キーを押すことでキャンセルすることができます。また、「タイムアウト」で設定した時間内に全てのポイントをタッチしないと同様にキャンセルされます。</p>

状態

「状態」では、現在の状態の確認や、ドライバやコントローラの再初期化などを行うことができます。



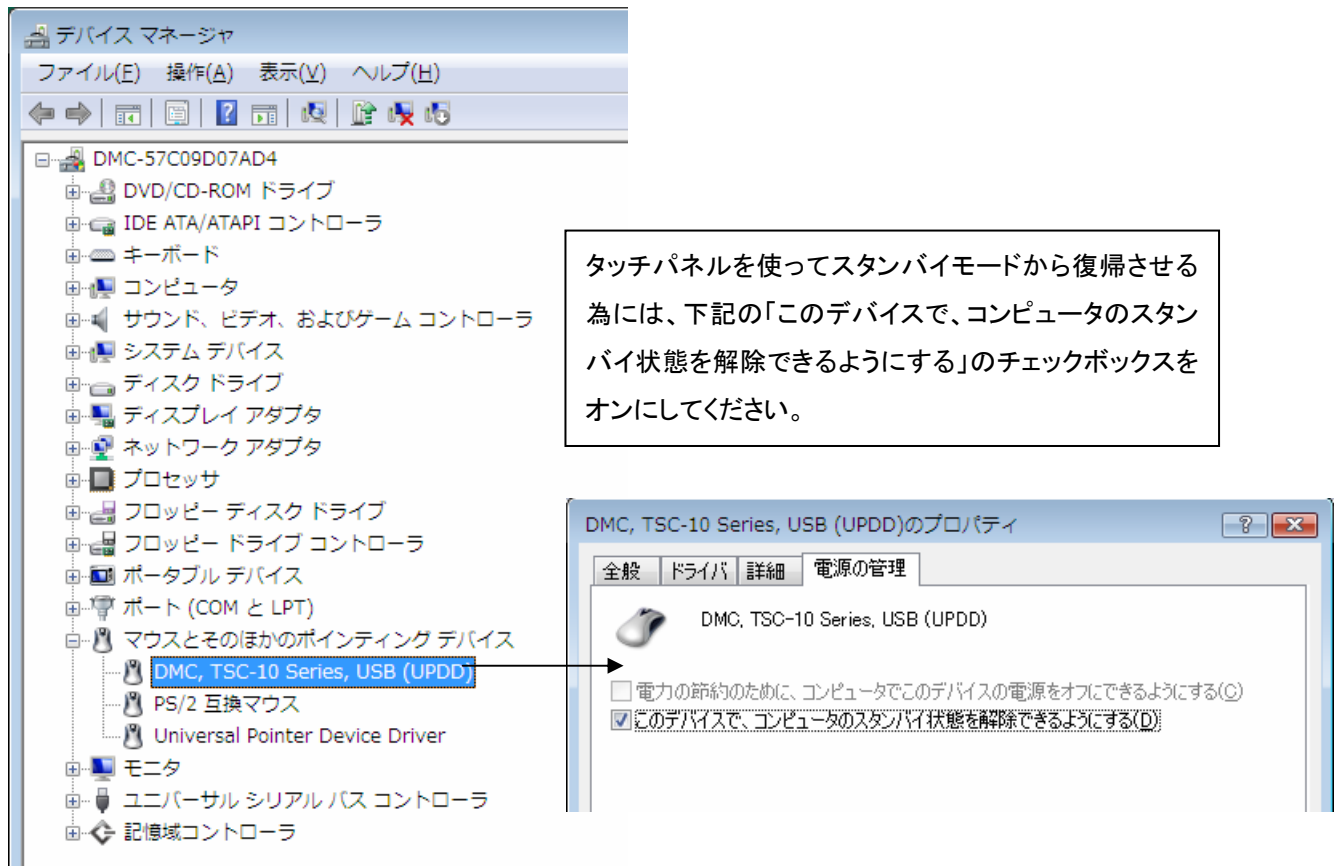
項目	説明	
コントローラタイプ:	現在選択されているコントローラのタイプを表示します。	
状態:	コントローラの接続状態を表示します。	
マクロ送信結果:	コントローラに初期化のためのマクロを送信した結果を表示します。 表示される内容は以下になります。	
	OK	正常な状態です。
	不明	マクロがコントローラに送られた後、コントローラからの応答をドライバが正常/異常の判断をできない時に示されます。 USB コントローラの場合、正常にもかかわらず「不明」と表示される場合がありますが、問題ございません。
	タイムアウト	指定された時間内に有効な応答が得られなかった時に示されます。
	失敗	コントローラもしくはタッチパネルが未接続、あるいはコントローラから NAK の応答があった場合に示されます。
	利用できません	ドライバがロードされていない、もしくは初期化中にコントローラからエラーの応答があった時に示されます。ドライバがロードされているにもかかわらず示される場合は、すでにそのポートを他のデバイスやプロセスが使用中の可能性があります。

同期エラー:	<p>同期エラーは、ドライバがハードウェアポートまたは受信データパケットで何らかのエラーを受け取った場合に示されます。</p> <p>この値は通常ゼロ、もしくは非常に低い値でなければなりませんが、高い数値が示されている場合には、接続されているデバイスの性能に影響を与える可能性のあるエラーが発生していることを意味します。これは、コントローラがUPDDの規定とは異なるボーレートで動いている、あるいは、コントローラがドライバによって認められないデータパケットを送信している可能性があります。</p>
 再初期化	<p>コントローラを再初期化します。Windows 起動後にシリアルコントローラの接続を行った場合、再初期化を実行してください。</p> <p>USB コントローラ使用時は、本機能は使用しません。</p>
 リセット	<p>再初期化実行後、マクロ送信結果を最新の情報に更新します。また、同期エラーのカウントをリセットします。</p> <p>エラーカウントが表示された場合のみ有効となります。</p> <p>USB コントローラ使用時は、本機能は使用しません。</p>
 ドライバ設定のリロード	<p>ドライバを再ロードします。実行後、数秒間待つ必要があります。</p>
 描写テスト	<p>描写テストを行うことができます。</p>
 タッチテスト	<p>タッチテストを行うことができます。</p>
 設定情報の出力	<p>ファイルにドライバ設定をダンプします。そのファイルはサポート目的に利用することができます。</p> <p>また、同じ設定を再度インストールしたい場合などにも利用できます。本ボタンをクリック後、作成されたファイルを「upddclon.reg」という名前に変更してください。さらに、setup.exe と同じ階層に「updd_ext」というフォルダを作成してください。先ほどの「upddclon.reg」ファイルを「updd_ext」フォルダ内に入れます。この状態で setup.exe を実行すると、upddclon.reg ファイルが適用され、upddclon ファイルを作成した時と同じ設定でインストールされます。なお、インストールは自動的に行われます。</p>

その他

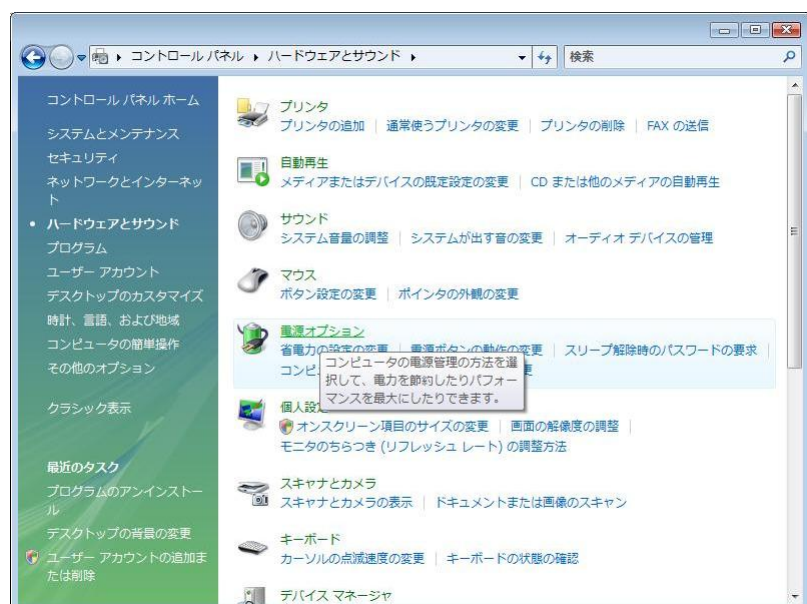
スリープ状態からの復帰

本ドライバソフトをインストールすると、デバイスマネージャの「マウスとそのほかのポインティング デバイス」の項目に「Universal Pointer Device Driver」がエントリーされます。USB コントローラで使用する場合、USB コントローラ接続後「DMC, TSC-10 Series, USB (UPDD)」がエントリーされます。USB コントローラ使用時、タッチパネルを使ってスタンバイモードから復帰させる為には、デバイスマネージャ内において設定をする必要があります。

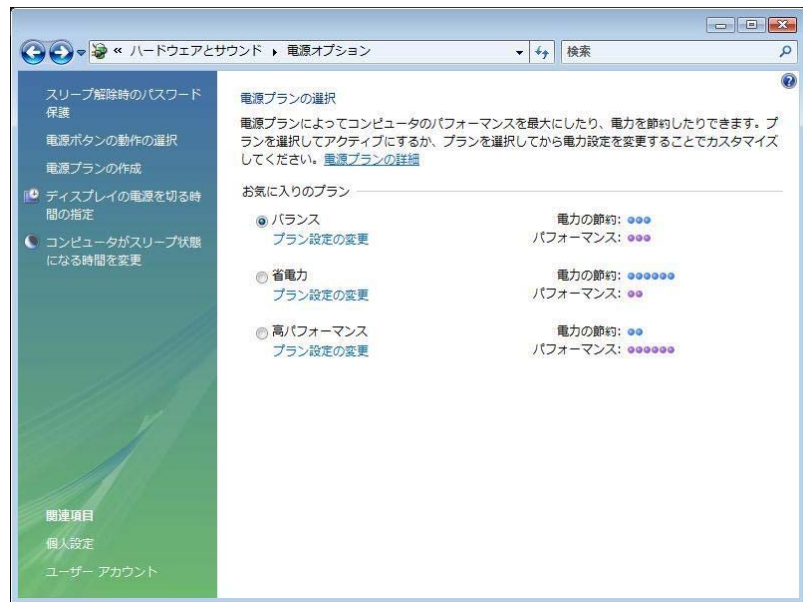


また、以下の手順にそって、ハイブリッドスリープをオフに設定してください。

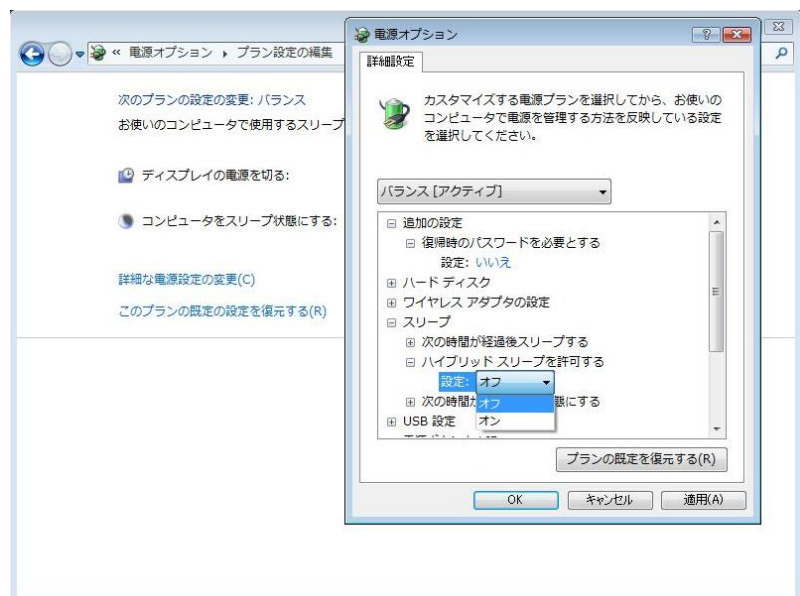
- ① 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」を選択後、「システムとメンテナンス」あるいは「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「電源オプション」を選択します。



- ② ‘電源プランの選択’ 画面の「プラン設定の変更」をクリックします。



- ③ ‘次のプランの設定の変更’ 画面の「詳細な電源設定の変更(C)」をクリックし、‘電源オプション’ ウィンドウの詳細設定タブ内の、[スリープ] - [ハイブリッド スリープを許可する] の [+] をクリックして、順番に展開します。



- ④ [設定]プルダウンメニューから[オフ]を選択して、[OK]ボタンをクリックします。

TSC-10/DD v4.00.06P 取扱説明書

第 1 版 2007 年 12 月 17 日 発行

©2007 DMC Co., Ltd.

本書の再配布を認めますが、本書の改変を禁止します。

株式会社ディ・エム・シー

<http://www.dmccoltd.com/>

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-2-4 神田セントビル 9F

Phone: 03-5209-7131 Fax: 03-5209-7130